

宇都宮市立城東小学校

学力向上に向けた学校全体での取組

★学校全体で、重点を置いて取り組んでいること

重点的な取組	取組の具体的な内容	取組に関わる調査結果
「宇都宮モデル」・「城東スタイル」を活用した「分かる授業」による学力の向上	本校では、学びの「城東スタイル」を掲げ、学校全体で共通理解のもと、学習指導に当たっている。めあてを明確にし示して、見直しをもって学習に取り組めるようにしている。一人で言葉や図、式で自分の考えを表時間を設けたり、ペアやグループ、全体で学び合いをする場を設定することで児童が学ぶ楽しさを感じながら、児童が「分かる」と実感できるようにしている。授業で学んだことや感じたことをふり返る時間を設けることで、家庭学習や自主学習に繋げるようにしている。	「学校の授業がどの程度わかりますか」の問いでは、4年生を除く、すべての学年が市の肯定割合を下回っていた。「グループなどで話し合いに自分から進んで参加している」の問いでは、低学年は市の肯定割合を上回っていたが、中学年以上は、市の肯定割合を下回り、70%を超える学年はなかった。「学習に対して、自分から進んで取り組んでいる」の問いでは、学年が上がるごとに肯定的回答の割合が下がり、6年生では、60%を下回った。「授業で習ったことを、その日のうちに復習している」の問いでは、すべての学年で市の肯定割合を下回り、肯定的回答の割合が50%を下回った。
GIGAスクール構想における1人1台端末活用において、授業や家庭学習での効果的な活用の仕方や工夫や児童が楽しく主体的に学んだり調べたり資料収集したりできる学習ツールとしての活用と、児童が自律的に責任をもって利用できる指導	本校では、長期休みにおいてAIDリルの家庭学習を全学年で新たに配付して、行うこととした。また、総合的な学習などの調べ学習の際には、図書資料と併用してインターネットを利用して調べ学習を進めることとしている。また、各教科の授業において、スクールタクトを活用して自分の意見を表現したり、考えを整理したりする場を設定している。	「インターネットやパソコンを利用して、学習に関する情報を得ている」の問いでは、高学年では、肯定的回答の割合が80%を超えていたが、中学年では、市の肯定割合を下回り、肯定的回答の割合が75%に届かなかった。「調べたことをパソコンを使ってまとめることができる」についての問いでは、高学年では市の肯定割合を上回っていたが、中学年では下回った。「パソコンを使って、相手に分かりやすく自分の考えや調べたことを伝えることができる」の問いでは、学年が上がるにしたがって、肯定的回答の割合は高まっていたが、すべての学年で市の肯定割合を下回っている。

★国・県・市の結果を踏まえての次年度の方向性

・学校全体で重点目標を設定し、具体的な取組を検討した上で指導してきたが、実を結んでいない。次年度についても、本年度同様「宇都宮モデル」「城東スタイル」を実践し、課題の設定や追及、まとめ、学び合い、振り返りの工夫など、各場面での指導の充実を図り「分かる授業」による学習への意欲向上に努める。

・学習に対する質問では、「学習に対して、面白い、楽しいと思うことがある」「学習しているいろいろなことが分かったりできるようになったりすることはうれしい」でほとんどの学年で市の肯定割合を下回っている。学力面では、どの教科も市の平均を上回っているにもかかわらず、学習に対する気持ちが育っていないので、意欲関心を高める教材を工夫したり、興味がわく導入を考えたりするなど、校内で学習指導について意図的に話す場を設ける。

・「インターネットやパソコンを利用して、学習に関する情報を得ている」「調べたことをパソコンを使ってまとめることができる」「パソコンを使って、相手に分かりやすく自分の考えや調べたことを伝えることができる」などの問いでは、学年が上がるにしたがって肯定的回答の割合は高まる傾向がある。授業や家庭学習での効果的な活用の工夫や、児童が楽しく主体的に学んだり調べたり資料収集したりできる学習ツールとしての活用と、児童が自律的に責任をもって利用できる指導をする。

・「授業の始まりには席についている」「授業に必要なものを忘れずに持ってきている」の項目では、多くの学年で市の肯定割合を下回っていたので、姿勢、返事、話の聞き方、発表の仕方、ノートの取り方、学習用具などの学習環境の整理等、基本的な学習態度を身に付ける取り組みを継続して行う。